

**大正期（その 5）**  
～「相中相高八十年」より～

## 5 運動会

相中の運動会は学校の一大行事であったばかりでなく、地域社会の人達が楽しみに待っていたお祭りでもあった。即ち、運動会は生徒の智育、徳育、体育三者の日頃の鍛錬を示す試験場であったばかりでなく、地元民に対して相馬中学校を赤裸々に紹介する場所でもあったし、相中生徒の体力を披露し、体育に力を注げば、国家社会にも貢献できる場所も大であるということを示すネタも含んでいたのである。

運動会は毎年九月に馬陵城趾（現二の丸グラウンド）で行なわれ、運営はすべて生徒の手に委ねられ、「協力一致」「勤労」「公明正大」「敏捷快活」の四つのスローガンのもとに、一日で七十種目にもわたる競技種目を行った。

生徒の運動会の服装は、白地のシャツ、ズボン、黒脚絆、それに足袋というふうには現代のものとは大部異なっていた。

放送設備など無かった当時は、運動会の諸連絡のアナウンスなどは、号外屋のように鈴を鳴らしながら会場を走り回り、マンガや軽いタッチの文章を書いた印刷物を一年生の係の者が見物者に配布していた。

運動会の主な競技種目に次のようなものがあつた。団体種目には、騎馬擬戦、棒倒し、連鎖競争、隧道ボール、瑞典式体操などがあり、軍事教練的な種目として、一、二年生合同の手旗信号、三、四、五年生の教練、三年生以上の模擬戦などがあつた。

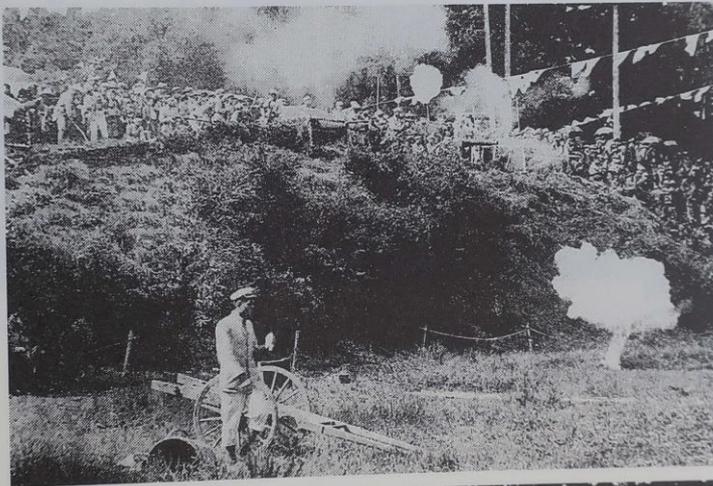
個人種目では、昇校競争、魚売り競争、武装競争、生存競争、俵運び競争などがあつた。職員の種目には、杓子競争、提灯競争などがあり、教室では見ることのできない先生方の滑稽な動作に、参会者一同ヤンヤの喝采をおくつたのであつた。

外部団体参加の種目には、中村薫陶園園児の三百メートル競走、中村小学校生徒の遊戯、郡内小学校対抗のリレー競争、卒業生有志による三百メートル競走などがプログラムに組まれていた。この中でも圧巻だったのは小学校対抗リレーであつた。各学校色とりどりのユニホームを着、熱のこもった盛んな応援で、会場一面沸きかえるような騒ぎであつた。

その他、デモンストレーション的なものに、地元小学生の相撲土俵入りや相中名物仮装行列（当時は社会行列といった）なども人気を博した種目であつた。



賞品授与所



模擬戦 (上), 魚売り競争 (下)

※写真は「相中相高百年史」より

(9月14日 転記&文責 村山)